

平成 30 年度事業報告書 (30.4.1 ~ 31.3.31)

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じての国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。

石洞美術館では、公益社団法人日本工芸会と共催で、公募展である「第 47 回伝統工芸日本金工展」を開催しました。

また、館蔵の書跡・絵画を展示した「石洞山人のまなざし ー館蔵書画展ー」、館蔵のイスラーム陶器を通時的に展示しながらヨーロッパへの展開を示した「館蔵イスラーム陶器展 西アジアに咲いた色とりどりの華」、十二支の動物たちがデザインされた絵画・工芸作品を展示した「十二支展」を開催しました。

助成事業では、海外調査の研究助成など、4 件の助成をしました。

また、35 回目となる淡水翁賞では 5 名を表彰しました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・平成 30 年 1 月 13 日より 4 月 1 日まで「館蔵 東アジアの工藝展」開催。
開館日数 68 日、来館者 1,098 名、1 日平均 16.1 名
(内平成 30 年度 開館日数 1 日、来館者 27 名)
- ・平成 30 年 4 月 28 日より 6 月 17 日まで「第 47 回伝統工芸 日本金工展」開催。
開館日数 44 日、来館者 2,511 名、1 日平均 57.1 名
- ・平成 30 年 6 月 30 日より 8 月 5 日まで「石洞山人のまなざし ー館蔵書画展ー」開催。
開館日数 32 日、来館者 641 名、1 日平均 20.0 名
- ・平成 30 年 9 月 1 日より 12 月 16 日まで「館蔵イスラーム陶器展 西アジアに咲いた色とりどりの華」開催。
開館日数 92 日、来館者 1,928 名、1 日平均 21.0 名
- ・平成 31 年 1 月 12 日より「十二支展」開催。会期は 4 月 7 日まで。
3 月 31 日までの開館日数 67 日、来館者 1,267 名、1 日平均 18.9 名

② 地域との連携活動

- ・足立区内の文化施設4館と連携して「コンサート in ミュージアム」を開催しました。石洞美術館では、「石洞山人のまなざし ー館蔵書画展ー」に合わせて、ピアノによるコンサートを行いました。

③ 広報活動

- ・「ぐるっとパス2018」に参加
- ・新聞各紙や地下鉄の広報誌等に各展覧会の広告掲載。

④ 資料の収集

- ・資料の購入

《陶磁器》朝鮮の陶磁器4件（水指1件、扁壺1件、水滴1件、瓶1件）、
琉球・八重山式土器壺1件、
加藤静允作品2件（大皿1件、向付1件5点）

以上7件を購入

- ・資料の寄贈

末廣文彦氏より、加藤静允作青花磁器壺1件の寄贈を受けました。

⑤ 資料の貸出

- ・横浜美術館「駒井哲郎ー煌めく紙上の宇宙」展（平成30年10月13日～12月16日）に「駒井哲郎・《墓掘人》」「駒井哲郎・《constellation〔星座〕》」の2件を貸し出しました。
- ・森アーツセンターギャラリー「新・北斎展」（平成31年1月17日～3月24日）に「葛飾北斎・羅漢図」（『書画帖』のうち）1件を貸し出しました。

⑥ 博物館館務実習受入

- ・武蔵大学1名、成城大学1名

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

- ① 米国ハーバード大学（東アジア言語文化学科）に対し当財団と土屋文化振興財団の双方で\$ 5,000 ずつの助成を行いました。
- ② 野口明日香（鶴見大学大学院） 「在米五十嵐派漆工作品の調査」（研究助成）
- ③ 中尾優衣（東京国立近代美術館主任研究員） 「「表派」に関する調査研究」（研究助成）
- ④ 秋本貴子（慶應義塾高等学校・非常勤教員） 「国宝・薬師寺吉祥天像に使用されている日本古来の麻布の研究」（研究助成）

以上4件、助成総額 ￥ 1,560,300

(2) 淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

第35回淡水翁賞については、所定期日までに7名の応募があり、選考委員会の議を経て、最優秀賞に西岡美千代氏、丸山祐介氏、優秀賞に加藤貢介、久米圭子氏、服部美樹氏が選出され、平成31年3月20日に授賞式を挙りました。

賞金総額 ￥ 1,400,000

附属明細書について

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和元年 5 月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金